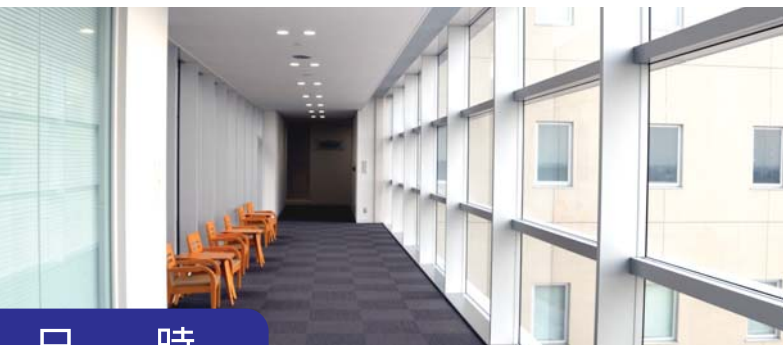


岐阜大学公開講座

# 医療マネジメント講座

先進的な大学院の講義を皆様に公開します。医療専門職及び医療経営に携わる方の参加を歓迎します。



岐阜大学 大学院  
連合創薬医療情報研究科

日時

平成23年

11月19日(土) 【10:00～16:45】

参加費  
無料

会場

岐阜大学医学部記念会館 2F 及び  
岐阜薬科大学 8F 情報系演習室

定員

100名

ただし、設備の都合上、  
④は先着30名

演題及び講師

① 10:00～11:00

国によるレセプト情報・特定健診等情報の提供について  
石井 隆太郎 氏 (厚生労働省 保険局総務課 医療費適正化対策推進室)

② 11:00～12:00

診療報酬明細書等の個人情報セキュリティ・マネジメントの実践  
森口 修逸 氏 (株式会社エム・ピー・オー)

③ 13:00～14:00

医療機関が有する診療報酬明細書等の経営データの活用について  
藍原 雅一 氏 (自治医科大学 地域医療学センター 地域医療情報学部門)

④ 14:15～16:45

医療機関が有する診療報酬明細書等の経営データ活用の実践(パソコンを使った実技)  
藍原 雅一 氏 紀ノ定 保臣 氏  
(自治医科大学 地域医療学センター地域医療情報学部門) (岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科)

## ① 国によるレセプト情報・特定健診等情報の提供について

平成18年の医療制度改革において、国及び都道府県が所掌する医療費適正化計画の作成等に資するため、電子化された全レセプトデータと特定健診・保健指導のデータを国において収集し、データベースを構築する方針が決定され、そのための規定が「高齢者の医療の確保に関する法律」に盛り込まれた。

その後、これらの国において収集したレセプト情報等のデータについては、医療費適正化計画の作成等のためだけでなく、公益性を有する学術研究のためにも有識者による個別の審査を経た上で提供するとの方針が示され、この方針の下、平成23年度から24年度の2年間で試行期間と位置づけ、厚生労働省においてデータを提供していくこととなっている。

一方で、現在のこうした第三者提供の枠組みについては、法的罰則の規定がないことやデータ様式自体の課題があること、利用者によるセキュリティ対策の徹底の必要性など、様々な課題がある。

この講演においては、現在、国において試行的に行っているレセプト情報等の提供の枠組みについて概括し、今後のデータ提供や利用者におけるセキュリティ対策のあり方などについて説明を行う。

厚生労働省保険局総務課・医療費適正化対策推進室 室長補佐 石井 隆太郎氏



## ② 診療報酬明細書等の個人情報セキュリティ・マネジメントの実践

レセプト情報・特定健診等のNDBは膨大なデジタル情報の蓄積である。大量のデジタル情報ゆえに、行政の保有する個人情報を匿名化して二次利用処理を行う際に、匿名化した場合でもなお「他の情報と照合することができ、それにより(容易に)特定の個人を識別」できかねないリスクが生じてしまう。

[注: ( )内は、一般の個人情報保護法]

厚生労働省が、NDBの大量の個人情報の取扱いを適切に行わせるために「レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するガイドライン」で、提供先に「ISMSの実践」(情報セキュリティ運用をマネジメントすること)を要件としたことは、大量デジタルの個人健康情報二次利用の先駆けとして、重要なターニングポイントである。個人健康情報(匿名化以前)に関しては、安全管理ガイドライン第4.1版により、院内での電子カルテ運用時のばかりでなく、その外部保存運用までの安全性に関するコンセンサスを既に得ている。

一方、クラウドによるICT運用を中心とした企業活動の投資メリットを獲得し、国民医療に貢献するには、「どこでもMY病院」等で収集した個人健康情報の積極的な活用(二次利用)が必須であるが、現行の法制度では困難であると言われている。個人健康情報の二次利用に関する国際的な情勢を比較・紹介しつつ、適切な法制度・ガイドラインの確立を提言する。

株式会社エム・ピー・オー 代表取締役 森口 修逸氏



## ③ 医療機関が有する診療報酬明細書等の経営データの活用について

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT戦略本部)医療情報化に関するタスクフォース「レセプト情報等の活用による医療の効率化について」と「自治医科大学地域医療学センター地域医療データバンク事業の活用事例」のケースから、現場の医療機関においてどのようにすればレセプトデータが活用できるかを講義する。

## ④ 医療機関が有する診療報酬明細書等の経営データ活用の実践(パソコンを使った実技)

請求レセプトデータから、経営データに活用できるデータ作成手順をVMS(ビジュアル・マイニング・スタジオ)を使用してデータの見える化のプロセスを演習する。

自治医科大学地域医療学センター・地域医療情報学部門 特命准教授 藍原 雅一氏



### 岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科

国立大学法人  
岐阜大学

医学  
創薬医療情報  
工学 薬学

岐阜薬科大学

連携

産業技術総合研究所

アステラス製薬(株)

理化学研究所

本研究科は国際的に水準の高い創薬医療情報に関わる教育・研究の展開、多方面の学術情報の蓄積と発信をめざしています。特に高度専門職業人、技術者、研究者の育成と同時に、社会人のリカレント教育としての責務も担っています。

### 会場案内図

● JR 岐阜駅…(のりば) ①

● 名鉄岐阜駅前…(のりば) ②

③ ④

※クルマで来場される方は大学病院患者様専用駐車場をご利用下さい。当日受付まで駐車券をご持参いただくと無料でご利用いただけます。

## 参加申込書 《FAX でお申し込みください》

※ご記入いただいた個人情報は、主催者において本企画に関わる事務処理以外には使用いたしません。 **FAX.058-230-7604**

フリガナ	ご連絡先	〒
ご芳名	④の実技に	どちらかを○で 囲ってください 参加を 希望する ・ 希望しない
TEL ( ) - ( )	FAX ( ) - ( )	E-mail @

**お申し込み方法** 申込書に必要事項をご記入のうえ、上記FAX番号(岐阜大学 連合創薬係)まで送信ください。

**お問い合わせ先** ◎岐阜大学 連合創薬係(担当 サワダ マツイ 澤田・松井) ☎ **058-230-7602**

●事前の申し込みがない方でも、席に余裕がある限り、当日参加を歓迎します。遠慮なくおこしください。